

令和五年度 小平市立小平第六中学校 学校経営理念

校 長 大島 義明

○ 学校経営の理念

(1) 同僚性を高め組織で対応 2－(1)

同僚性（教職員がお互いに支え合い高めあう）を高め、協働し、組織としての取組を行う。生徒の抱える問題は年々多様化複雑化しており、その対応は、担任のみの対応では難しい場面が増えている。チームとしての支援を行っていく必要がある。また、チームや組織のために「自分にできることは何か、何を変える必要があるのか」と自問し、組織人として、生徒のため、チームのために考え行動することが重要である。そのためにも、教職員同士がお互いに関心をもち、気づかい、安心感がもてる風通しのよい職場環境づくりが大切となり、挨拶や感謝のコミュニケーションが行き交う職場でありたい。

(2) ウェルビーイング（持続的な幸せの状態）な学校づくり 2－(2)

生徒・保護者・教員・地域住民が幸せ感を維持し続けられる場としての学校づくりを目指す。

- ① うれしい・楽しい・感謝する感動体験（前向きな感情をもつ）
- ② 夢中になり没頭できる（積極的に自らの力を生かす）
- ③ 他者との関係の中で、お互いを認め合う（居場所を感じ、絆を強める）
- ④ 社会に貢献する（自己有用感を高め地域を大切に思う）
- ⑤ 取組を最後までやりきる（自分や学校に誇りを感じる）

(3) 生徒の5年後10年後を考えた教育活動の創造 2－(3) 8－(3) ④(11) ③④

教員は5年後10年後の生徒に必要な力を身につけさせる視点を常にもつ必要がある。「単に□□するのではない、□□を通じて〇〇をする」といった視点である。例として、災害時にある人が言っていた、われわれは単に炊き出しでカレーを渡しているのではない、カレーを通して生きる勇気と希望を渡している、といった捉え方である。今後更に大切となる、コミュニケーション力（挨拶や表現する力）、個別最適化や対話的・協働的な学びの活動を創造する。

(4) 理念を継承していく 7－(5)

教育活動は、その目的と教育的効果を適切に把握し、ねらいを意識して行うべきである。スクラップアンドビルドで活動を見直すことは大切ではあるが、六中地域の実態と特色から大切にされてきた理念は継承していく。 例:地域と学校が連携し協働して生徒の成長を支えていく。

(5) 現場主義で課題を捉える 2－(1) 8－(5)(7)

教育の原点は、家庭であり、学校であり、地域である。組織の成果は、トップ個人のリーダーシップの質よりも、組織におけるメンバーのリーダーシップの総量によって規定される。教育活動や課題に対し、それぞれが自分事として捉え持ち味を生かすし、多くのメンバーにリーダーシップを発揮してもらいたい。また、教員にとどまらず、保護者や地域住民のリーダーシップも視野に入れ、「地域とともに歩む学校」づくりを目指していく。そのためにも地域に学校経営方針をわかりやすく伝え、適宜教育活動の様子の配信を行っていく。